

第25回「日韓高校生交流キャンプ」参加生徒の感想文 ⑥

「不死鳥」



伊藤 涼葉

洗足学園高等学校 2年

日韓高校生交流キャンプで過ごした五日間は私の人生の中で最も濃く、充実していた、最高の五日間だった。

待ちに待ったキャンプが始まるというキャンプ初日は台風であった。私は飛行機で広島まで向かう予定であったが、台風の影響で到着を遅らせざるを得なかった。前日まで必死に韓国語を勉強してスーツケースの準備も万端でやっと迎えたキャンプの日であったのに予定外のことが起こり、不安でいっぱいだった。これから五日間のキャンプに対する楽しみより不安のほうが大きかった。

なんとか広島の会場に辿り着き、韓国学生と対面した時、ようやくキャンプが始まる実感がわき、無性にわくわくした。

1日目、韓国学生と初めてお互いの学校生活や家族、文化についての話をした。お互いまだ緊張していて上手く話せず、会話は途切れ途切れであった。しかし、ずっと気になっていた韓国の高校生の生活や国が

違っても感じることや学校での生活は似ていることを知りとても親近感が湧き、心の距離も縮まった気がした。

そして、私たちのチーム名、「不死鳥」もこの日に決まった。

2日目、宮島へ行く予定は残念ながら無くなってしまったが、原爆ドームへ行き、経済現場体験でおたふくソースの工場に伺った。原爆ドームでは、日本の悲しい歴史を知り、自らの身をもってその残酷さを実感する経験になった。韓国の学生の方々も真剣に資料や展示を見て、たくさん質問をしており、とても不思議な気持ちになった。国が違ってもお互いのことを理解しようとするその行為が、何かとても大切なものを感じた。

経済現場体験ではお好み焼きの歴史や、生産から出荷まで様々なことを学び、驚きに溢れていた。

2日目が終わる頃には、不死鳥のメンバーはすっかり仲良くなっていた。

3 日目、いよいよ始まった、事業計画。それまで抽象的だった像を具体化するの想像以上に大変だった。次の日に発表だと言うのに、私たちのチームは事業を何度も作っては考え直すことを繰り返し方向性を固めるのに夜まで時間を取られてしまった。

それから、QR コード、という事業アイテムをキーワードに日韓学生の知恵とアイデアを集約させ、様々な資料やデータをもとに説得力のある事業案を目指した。台本を書き終えた時には、もう朝の 5 時になるという時であった。全員で作り上げたものが出来上がった喜びも束の間、発表の時間が刻々と近づいていた。

ほとんど寝ずに迎えた発表当日、キャンプ 4 日目が始まった。朝ごはんを食べてすぐ、事業案の発表が始まった、私たち不死鳥が一番最後に発表するチームであった。正直、他のチームの発表は全く頭に入らず、ひたすら自分のチームの発表の不安で頭がいっぱいだった。

そして、いよいよ私たちの出番。ステージに上がってからは、緊張しすぎてあまり覚えていない。ただ、私たちが作り上げた事業案に自信を持って発表した。予定通りいかないこともあり、失敗したなど思うところが多々あった。賞を取りたい気持ちはやまやまだったが、取れなくてもしょうがないか、という気持ちだった。

結果は、人気賞。本当に嬉しかった。朝まで寝ずに頑張った成果が出た気がして、最高に嬉しかった。

このキャンプを通して、事業案を作り上げることの難しさ、国を超えてコミュニケーションを取る難しさと楽しさ、そして平和に対する新たな意識に気づくことができた。今回の経験を通して学んだことを今後の人生に活かしていこうと思う。最後に、このキャンプで私に関わってくださった全ての方に感謝しています、ありがとうございました。

「最高の五日間」



田中 和

大阪府立茨木高等学校 2年

私は、何かをつくる時、少しでも良いものにしようとするのが好きです。学校行事などで、たくさんの仲間とそんなことがしたい、という期待を持って高校に入ったのですが、高校でも、それほどみんなが一生懸命にはなりません。そして、どこに行ったらそれが実現するのだろう、などと考えていたときに見つけたのが、このキャンプの案内でした。

そして私は、このキャンプで、それを実現することができたのです。

私は、キャンプで韓国の学生と仲良くなれないのでは、という心配はしていませんでした。ところが、初日は、韓国の学生とうまく話せず、夕食もほぼ無口で終わってしまって、急に不安になりました。

私の場合、それが一気に無くなったのは、二日目に、メンターさんに教えてもらった簡単な韓国語を、チームメイトに対して使ったときでした。大した内容ではなかったのですが、やはり自分の国の言葉を話されたときの安心感は、決して小さなものではないのだと実感しました。逆に、韓国の学生が日本語を話してくれたときは、私自身も距離が近くなったように感じました。そ

の後は、スマホで韓国語を調べて使うようになりました。

だんだんとチームが打ち解けてきた三日目には、丸一日かけて事業を考えました。私はこの日が、五日間のうちで一番充実していたと感じます。それは、みんなが、それぞれの意見を、一番遠慮なく言っていた日だったからだと思います。

事業計画の日はほとんど寝られない、と説明会で聞いたときは、もともと丸一日が事業計画に充てられているのに、さらに夜も作業なんて、何にそんなに時間がかかるのか、と思っていました。しかし、そんなことを考えたのは、少しでも良いものにと、全員でこんなに一生懸命になった経験が、私に無かったからでした。

結局、私のチームも、夜遅くまで作業をし、寝たのは三時半頃でした。

これだけの準備をしたものの、四日目の事業発表会で、他のチームの完成度の高い発表を聞いて、私たちは自信を無くしていました。だから、最優秀賞発表のときに私たちのチームの名前が呼ばれたときは、本当にうれしかったです。そして、このチー

ムのひとりでも欠けていたら、この賞は無かったらろうと、心から思いました。それほど、私たちの事業案、発表は、一人ひとりのアイデアが集結してできたものでした。

その夜には、チーム内でトラブルが起きてしまいました。決して小さいと言えるものではありませんでしたが、そのトラブルに対して、みんな真剣に向き合いました。私も、ひとつの出来事を、こんなにも真剣に考えたのは、これが初めてだったかもしれません。それほど、仲間に悪い思いをさせたくない、という気持ちが強かったのです。私たちは、それを乗り越えることで、さらにすばらしい仲間になったように思います。

五日目の朝、別れのときには泣かなかったのですが、帰りの新幹線で、みんなからのLINEを見たときには、つい涙ぐんでしまいました。

キャンプが終わって日常に戻っていくのを実感すると同時に、五日間、他では決し

てできないような貴重な体験をした、と深く感じました。五日間があまりにも充実していて、帰ってからの数日間は、普段の生活に物足りなさを感じてしまうほどでした。

日韓高校生交流キャンプでは、ただ楽しいことだけではなく、大変なこともありましたが、だからこそ、それが私に大きな影響を与えました。言葉の壁がありながらも、相手の思っていることを理解しようとしたことは、普段ももっと他の意見に耳を傾けよう、という新しい姿勢につながりました。

また、みんなで「少しでも良いものに」と一生懸命になることの楽しさを実感し、今後もこのような体験をしたい、と強く思うようになりました。

私たちにこのような機会をつくってくださった皆様、本当にありがとうございました。そして、チーム3のみんなとメンターのミョンジンさん、最高の思い出をありがとう！

「大切な思い出」



吉田 萌香

京都教育大学附属高等学校 2年

私がこのキャンプに参加することが出来るとわかった時、先輩方の感想文を幾つか読んだ。どの感想文にも「かけがえのない友達ができた」や「別れの時は涙した」など書いてあり、たったの5日間でこんな風に思うのかと思いながらキャンプまでの日を過ごした。

1日目は天候がすぐれなかった。雨が降っているとかではなく、台風と私たちのキャンプ初日が重なったのだ。日韓両高校生の集合が大幅に遅れた。集合時間になっても集まっているメンバーは少なく話しているグループなんてほとんどなかった。

私がチームの中で一番最初に来て、他のチームに入らしてもらい色々なことを話していた。そして、自分の班のメンバーが到着しても怖くて話しかける事が出来なかった。二人目のメンバーが来た時、初めて自分の班に戻った。メンバーは説明会で会わなかった方々で緊張し全然話せなかった。それから日本のグループメンバーが集合して一先ず部屋に行くことになった。部屋に入るともう一度自己紹介をし、トランプなどをして緊張をほぐしていった。

その後、韓国のメンバーが到着して自分の事や学校の事を紹介した。今まで練習し

勉強してきた韓国語を使って紹介し、相手が頷いてくれた時はとても嬉しかった。自己紹介が終わった後も話す時間があったが冊子に書いてある言葉以外分からず、日本語で質問してしまった。すると、韓国の学生は日本語で答えを返してくれたり、質問してくれた。そんな些細なことだけでも私はとても嬉しくもあり感動した。この日の夜ご飯は自分も含め皆が静かに黙々と食べていた。

二日目は予定を変更し宮島観光を取りやめて初日に行くはずだった平和記念資料館と原爆ドームに行った。見学する前まで話していたりはしゃいでいた皆もいざ見学するとなると、静かになり真剣に見回った。

その後はマツダミュージアムに行き、車を造る上で大切にしている事や目標について説明していただいた。夜にはゴールデンベルがあった。私は英語も韓国語も話すのが苦手で、日韓の高校生が二人一組になって行うゴールデンベルが一番不安で怖かった。でもやってみるととても楽しく班のメンバー以外と話す良い機会となった。お互いの言語と簡単な英語を使いながら短い時間で問題を解き、答えがわからない時は一生懸命考えて次に進んでいくのは達成感が

あった。

三日目は一日中事業案発表の準備をした。初日にあまり考える時間がなかった分一分一秒が大切だった。皆で案を出し合い考えていくうちにメンターさんを通して話し合うのがめんどくさくなり、日韓で分かれて意見を出し合うという事態まで起きた。そんな事が起こるとメンターさんが毎回止めてくれてもう一度一緒に話し合うことができた。

私は韓国の学生が、話が進むたびに次々と新しいことを出したり、パワーポイントの作業もてきぱきと進めていく姿を見て感動した。私は一緒に考えている最中で眠たくなって限界が来てしまった。その事をメンバーが気が付いて無理しなくて良いと言って、残っていたことや説明を代わりにやってくれた。その後、私が気が付いたときは終わりに差し掛かっていて物凄く申し訳なかった。

四日目は事業発表会で私たちの発表は後半だった。結果、賞を得るころは出来なかった。結果が全てじゃないし、皆で力を合わせて意見が食い違ったこともあったけど、一つの事を成し遂げることが大切だ。

発表が終わったあと、チームのメンバーに向けて一言を書いたり、日韓の伝統遊びなどをした。

五日目の別れの日、フライトの時間などもあり朝早かった。たったの四日間一緒に過ごしただけなのに別れることがとても悲

しかった。このキャンプは私にとって充実し、忘れられないものになった。

韓国の学生と別れた後は日本人の学生と行けなかった宮島に行った。鹿を見たり厳島神社に参拝してこの後、自分の家に帰るなんて思わずまだキャンプが続くように感じた。

ここまでがキャンプでの出来事だ。

このキャンプは K-POP が好きな学生が多くて実際、班の女子のメンバーがそうだった。私は K-POP なんて聞かないから知らなかった。だから、皆が盛り上がっていても話についていくことが出来なかった。でも、皆は私に分からないことを教えてくれた。部屋では韓国語を教えてくれたり恋バナなんかもいっぱいした。

韓国は報道の影響もあり良い印象がなく嫌悪感さえ抱いていた。一緒に過ごしてみてもその考えが変わった。私たち日本人と何も変わらないし、あると言ったら言語の違いぐらいだろう。韓国と日本は政治的な関係は良いとは言えないが、若者同士は仲良くできるってことを知ってほしい。私たちが見たり聞いたりしている内容は言ってしまうと大人の世界だ。今政治の中心にいる人たちと私達では育ってきた世界の情勢が違うのだから。私はもっとこういう活動が増えて身近なものになれば、日韓の関係は良くなると思う。

最後に、このようなキャンプを運営してくださった方々、忙しい中、事業発表をお聞きくださった方々、そして OB・OG の方々に感謝しています。本当にありがとうございます

いました。

